

10. 七戸町・東北町の介護支援専門員の仕事に関する意識・実態調査(口述発表II-1, 保健・医療・福祉サービスの充実のために, 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録)

著者	工藤 晶, 鈴木 陽子, 久保田 由美子, 盛田 一成, 附田 留美子, 石田 賢哉
雑誌名	青森県立保健大学雑誌
巻	9
号	1
ページ	78-79
発行年	2008-06
URL	http://doi.org/10.24552/00001887

七戸町・東北町の介護支援専門員の仕事に関する 意識・実態調査

工藤 晶¹⁾ 鈴木 陽子¹⁾ 久保田由美子¹⁾
盛田 一成¹⁾ 附田留美子²⁾ 石田 賢哉³⁾

1) 七戸町地域包括支援センター（健康福祉課）

2) 東北町地域包括支援センター

3) 青森県立保健大学

Key Words：①介護支援専門員支援 ②仕事の満足度
③仕事の負担感 ④介護支援専門員研修

I. はじめに

介護支援専門員の業務の現状には次のような課題がある。①自身の力量に不安を感じながらも他の専門職からの支援やスーパーバイズを受けにくい。②業務範囲が標準化されておらず、研修体系も確立していないため、専門職としての資質にバラつきがある。③利用者増により、介護支援専門員一人当たりの担当件数だけでなく、支援困難事例も担当しているため、業務負担が過大となっている。

このような課題をふまえ、当地域包括支援センターでは近隣の東北町地域包括支援センターと共催で介護支援専門員支援という観点から、研修会を開催し、医療や介護の専門知識の習得や事例困難なケアプラン作成の検討を行っている。その研修の中で今回、意識調査を実施したので報告する。

II. 目的

管轄する介護支援専門員の業務の取り組み姿勢や改善点等の「気づき」を促すとともに、介護支援専門員の仕事に関する負担感や課題を明確化する。

III. 研究方法

1. 期間

平成19年11月

2. 対象

七戸町・東北町に勤務する介護支援専門員61名（七戸町28名、東北町33名）

3. 調査方法

質問調査：自己記入

介護支援専門員研修会開催時の集合調査と不参加者には留め置き調査を実施。アンケート用紙は無記名とし、評価に一切関係しないことを明記し、回答をもって同意とした。

IV：分析の方法と結果

分析にはSPSSver15を使用した。61名からの回答を得、回収率100%であった。

負担感については、鈴木（2003）が作成したスケールを使用した。職務満足については安達（1998）が開発した職務満足スケールを使用した。安達はハーズバークの2要因理論を基本として、給与という領域を追加設定している。安達はこのスケールは他分野にも活用可能であることを述べている。職員の利用者への関わりについては石田（2006）が作成した項目を使用した。その他に施設、病院等との連携に関する項目を設定した。

負担感に影響を与えている要因を明らかにするために分散分析（ANOVA）をおこなった。従属変数に負担感を、固定因子として「兼務の有無」「仕事仲間との業務内容や進め方についての共通理解」「福祉施設機関との連携」「医療機関との連携」「保健機関との連携」「困難ケースへの連携での取り組み」「今後もケアマネとして働きたい」の7項目を投入した。

変数相互間の影響をコントロールしてみると、有意確率5%水準で「負担感」に統計的に影響を及ぼしている項目は（カッコ内は有意確率）、「仕事仲間との業務内容や進め方についての共通理解（0.045）」の1項目のみであった。5%をわずかに超えているが「今後もケアマネとして働きたい」が0.058であった。R²乗値は0.955であった。影響の方向性として、仕事仲間との共通理解が「ない」と感じている介護支援専門員のほうが「ある」と感じている人たちよりも負担感が高いことが明らかになった。また、福祉機関や医療機関、保健機関との連携の評価は負担感に影響を与えていないことが明らかになった。

V：考察

今回の調査では、仕事の負担感に影響を与えている組織要因として仕事仲間との共通理解があることが明らかになった。また、当初想定していた、他業務との兼務や他機関との連携がとれているかという要因は負担感に影響を与えていないこともわかった。

当地域包括支援センターは、介護支援専門員から支援困難ケースやケース対応について等の相談が寄せられることも少なくない。事業所に一人しか介護支援専門員がいない事業所もあり、同僚に相談したくても相談できない介護支援専門員もいる。今後はこれまで同様、介護支

援専門員の相談業務にあたるとともに、今回の調査結果をあらゆる機会を捉えて周知し、管轄する介護支援専門員のみならず、他職種にも現状を理解してもらいたい。また、研修会でも職場内のコミュニケーション技術等、職場内の人間関係を良好に保つことが出来るようなテーマ設定も検討していきたい。

VI：文献

- 1) Herzberg,F(1996) Work and nature of man. New York: World Press.
- 2) 安達智子（1998）「セールス職者の職務満足感－共分散構造分析を用いた因果モデルの検討」『心理学研究』69（3）、223－228.
- 3) 鈴木あおい（2003）「精神障害者グループホーム職員の職務満足度と負担感に影響する織的要因についての研究」『精神障害とリハビリテーション』7（1）、47-53.
- 4) 石田賢哉（2005）『地域における精神障害者の生活の質に関する研究－地域の日中活動における主観的QOLの視点から』2005年度博士論文（人間学博士）大正大学大学院.
- 5) 株式会社日本医療企画、ケアマネジメント・オンライン（2007）<http://www.caremanagement.jp/>
- 6) 財団法人長寿社会開発センター（2007）『地域包括支援センター業務マニュアル』